

第6次二宮町総合計画 基本構想素案

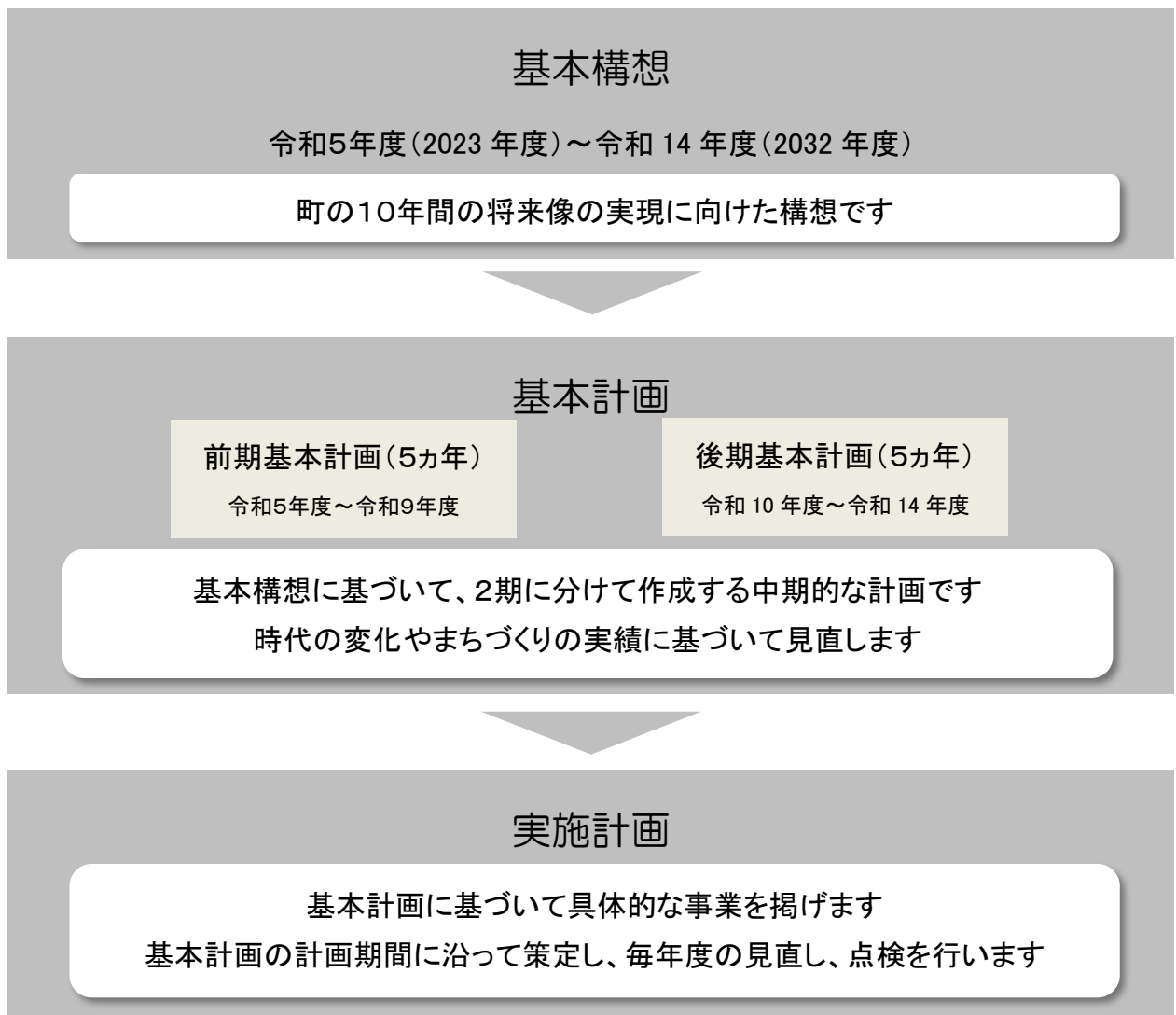
1. 計画の目的と役割

(1) 計画の目的

人口減少や人口構造の変化など、様々な時代の変化に的確に対応し、持続可能なまちづくりを行うため、令和5年度からの10年間に於ける町のまちづくりの指針として策定する。

(2) 計画期間と構成

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3層より構成する。



2. 基本理念と10年後の将来像

(1) 基本理念

町は町民と力を合わせてまちづくりを推進するため、より明るく豊かなまちの発展に願いを込め二宮町民憲章を制定しました。

第6次二宮町総合計画では、改めて、町民の豊かな暮らしの実現に向けて、町民憲章をまちづくりの普遍的な「基本理念」とし、町民と町の協力によりまちづくりを進めていくこととします。

二宮町町民憲章（昭和53年7月5日制定）

- ・ 郷土を愛し、自然をいかすきれいな二宮町をつくりましょう。
- ・ ふれあいを深め、ことばをかえあうさわやかな二宮町をつくりましょう。
- ・ きまりを守り、良習をはぐくむ住みよい二宮町をつくりましょう。
- ・ 幸せを願い、健やかな明るい二宮町をつくりましょう。
- ・ 教養を高め、文化のかおる豊かな二宮町をつくりましょう。

(2) 10年後の将来像

「豊かな自然と心を育み、人から人へつなぐ笑顔の未来」

○ 説明

町は、緑あふれる山と穏やかな海などの自然や温暖な気候に恵まれるだけでなく、他者を受け入れる懐の深い町民性により、地域で支えあう温かい文化を自然と育んできました。

しかし、全国的に進展している人口減少・少子高齢化は、町特有の支えあいの文化だけでなく、産業・福祉・教育・都市基盤と様々な分野に影響をもたらす大きな問題です。

また、近年頻発している地球温暖化の影響を受けた大雨等の自然災害や、新たな感染症の出現なども、安全で安心な日常生活を営む上での脅威になっています。

これらの問題に適切に対応し、この町の特徴である豊かな自然や支えあいの文化、多様性を受け入れる風土といった魅力を、未来を担う子どもたちに受け継げるよう、様々な取り組みを持続可能な形に変えていく必要があります。

この必要な変革を進めるうえで、「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念を基盤として、町民の皆さんから寄せられたたくさんの想いを紡ぎ、未来へ希望をつなげるため上記の将来像を掲げます。

3. まちづくりの方向性（基本目標）

（1） 子どもたちの健やかな成長と生きる力を育むまち

施策分野：子育て、教育

豊かな自然の中で、心のゆとりをもって子どもを産み、地域に温かく見守られながら、誰もが安全・安心な子育てを行うことができる環境の整備を推進します。また、未来を担う子どもたちが、様々な環境の中でも、主体性を持ち、自ら考え、将来を切り開いていくための生きる力を育むまちを目指します。

（2） 誰もがいきいきと豊かに暮らせるまち

施策分野：福祉、健康・保健

住み慣れた地域で心身ともに健やかで自立した生活を送ることのできる地域共生社会の実現に向け、多様化したニーズに対応する包括的な支援の充実と、人と人とのつながりを大切にした、地域とともに支え合う仕組みづくりを進めます。また、豊かな自然環境や町民の力を生かした心と身体の健康づくりを推進します。

（3） 人と地球にやさしい持続可能なまち

施策分野：環境、防災、消防救急、安全安心

恵まれた自然環境は大切な財産であり、地域の環境を守りつなげていくために、町民、地域、事業者、町がともに学び、考え、実行することで、地球温暖化対策に取り組むなど環境と共生する持続可能なまちづくりを推進します。また、近年多発する大規模災害を始め、感染症の流行等、社会情勢が変化する中でも、ともに力を合わせて支え合い、防災力や防犯力を高め、安全で安心して暮らせるまちを目指します。

（4） 地域資源を生かしのぎわいのある活力に満ちたまち

施策分野：農林漁業、商工業、観光

自然や歴史、文化などの豊かな地域資源と人のつながりを生かして、人材育成や経営支援などを図り、農林水産業、商工業を振興し、事業に携わる誰もがやりがいをもって挑戦できるまちを目指します。また、多様な観光資源を発掘し、観光情報の提供、誘客宣伝活動を行って、交流人口の増加による経済の活性化と文化の発展を推進します。

(5) 都市と自然が調和した安全で快適なまち

施策分野：都市基盤、土地利用、公園・緑地

吾妻山公園を始めとした緑に囲まれた地域資源を生かした魅力あるにぎわい拠点の形成、生活道路や下水道などの社会基盤の継続した整備・維持、地域公共交通の確保・維持を通して、誰もが豊かさを感じる快適な生活を支えるまちを目指します。

(6) 町の歴史や文化への誇りと、学びを通じた生きがいがあるまち

施策分野：歴史・文化、生涯学習・スポーツ

これまで先人が紡いできた歴史や文化を知り、保全、継承していくことで、郷土への誇りと郷土を愛する心を育むとともに、学習活動やスポーツ活動を通して、町民が生涯にわたり生きがいを持って充実した生活を送ることのできるまちを目指します。

(7) きずなを強め、町民と行政がともに取り組むまち

施策分野：自治、行財政改革、地域づくり

人口減少、少子高齢化の進展に伴い、今後、さらに財政状況が厳しくなる中、新しい未来技術を活用した効果的なサービスの提供と健全で持続可能な行財政運営を推進し、老朽化が進む公共施設の複合化などを進めていきます。

そして、町民を主役として、地域、事業者、町、さらにまちに関わるすべての人々がそれぞれの役割を意識して、ともに行動し支えあうことで、人権を尊重し多様性が生かされるまちづくりを推進します。

4. 土地利用構想

(1) 土地利用の基本方針

公共施設の再編、町有地の有効活用を念頭におき、10年後の将来像を実現するために、より効率的かつ効果的な土地利用を図る。

(2) 土地利用の目標

町の中心に、駅前からラディアンにかけての「文化・行政拠点」を位置付けるとともに、東西・南北の「軸」や住宅地・各種産業などのゾーンのつながりにより町を構成する。そして、それぞれの特性を強めることで、コンパクトな町に相応しい交流の和を広げる。

資 料 編

計画の策定にあたり、踏まえるべき背景として、本町の地域特性、人口動態、社会潮流、町民の意識を整理します。

(1) 町の特性

○ 位置・地勢

二宮町は、神奈川県西南部に位置し、東京からの距離は約 70 キロメートルです。東は大磯町、北は丹沢連峰を背に中井町、西は中村川をはさんで小田原市、南は白砂青松と紺青の海原「相模湾」に面しています。

町の形状はおおよそ三角形で、南部は東西の幅 3.3 キロメートル、北に進むにしたがって狭くなり、南北は 3.8 キロメートル、総面積 9.08 平方キロメートルです。地形的には山地部と平野部とのバランスがとれていて、町を東西に分断するかのようには 2 級河川の葛川が流れています。

町の東西には東海道本線、東海道新幹線、国道 1 号、西湘バイパスと小田原厚木道路が走り、南北には県道秦野二宮線があって、それぞれ町道と連結し住民の利便に供されています。

気候は温暖で、豊富な自然と新鮮な海の幸山の幸に加え、純朴な風土とすばらしい生活環境です。

○ 沿革

二宮町の名称は、町内に存在する川勾神社が相模国「二の宮」と称され、地域の鎮守として、多くの人々から信仰されていたことに由来するとされています。

明治 22 年の市町村制の施行に伴い、一色、中里、二宮、山西、川勾の 5ヶ村が合併し吾妻村となり、昭和 10 年 11 月、町制の施行により二宮町となりました。温暖な気候と山と海に囲まれた住宅地として、昭和 40 年前後から丘陵地において宅地開発が進み、かつての半農半漁ののどかな村が、住み良い住宅地として発展し現在に至っています。

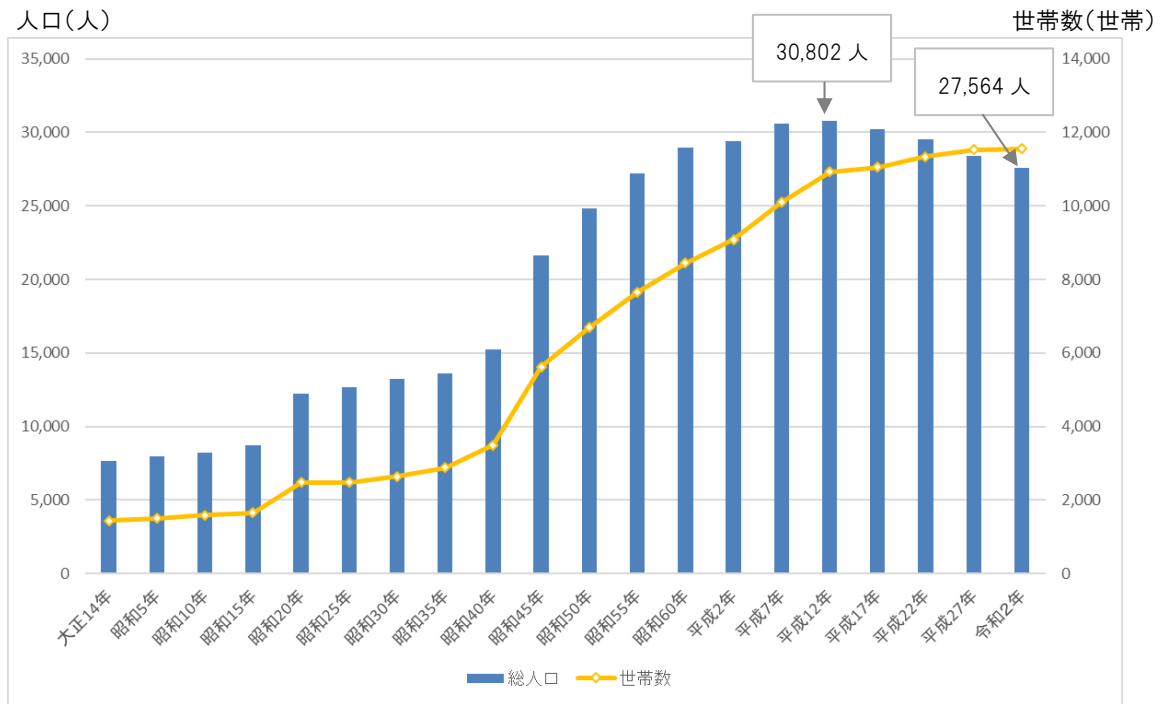
○ 人口動態

町の人口は、平成 12 (2000) 年をピークに減少し、令和 2 (2020) 年には 27,564 人で、平成 12 年の 89.4% となっています。

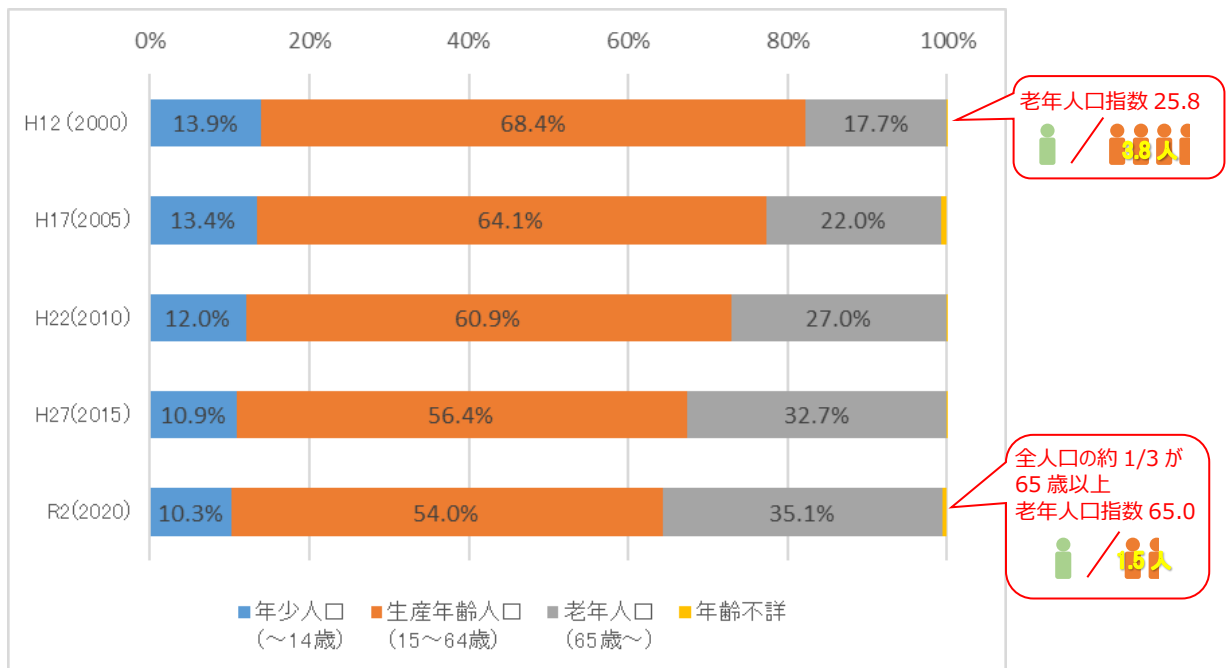
一方で、世帯数は増加傾向が続き、1 世帯あたりの世帯人員が 2.38 人まで減少しています。

65 歳以上の老年人口は、令和 2 年に全人口の約 1/3 を占め、老年人口指数 (= (老年人口 / 生産年齢人口) × 100) が 65.0、生産年齢人口 1.5 人に対し老年人口 1 人の割合となっています。

◆人口・世帯の推移(データ:国勢調査)



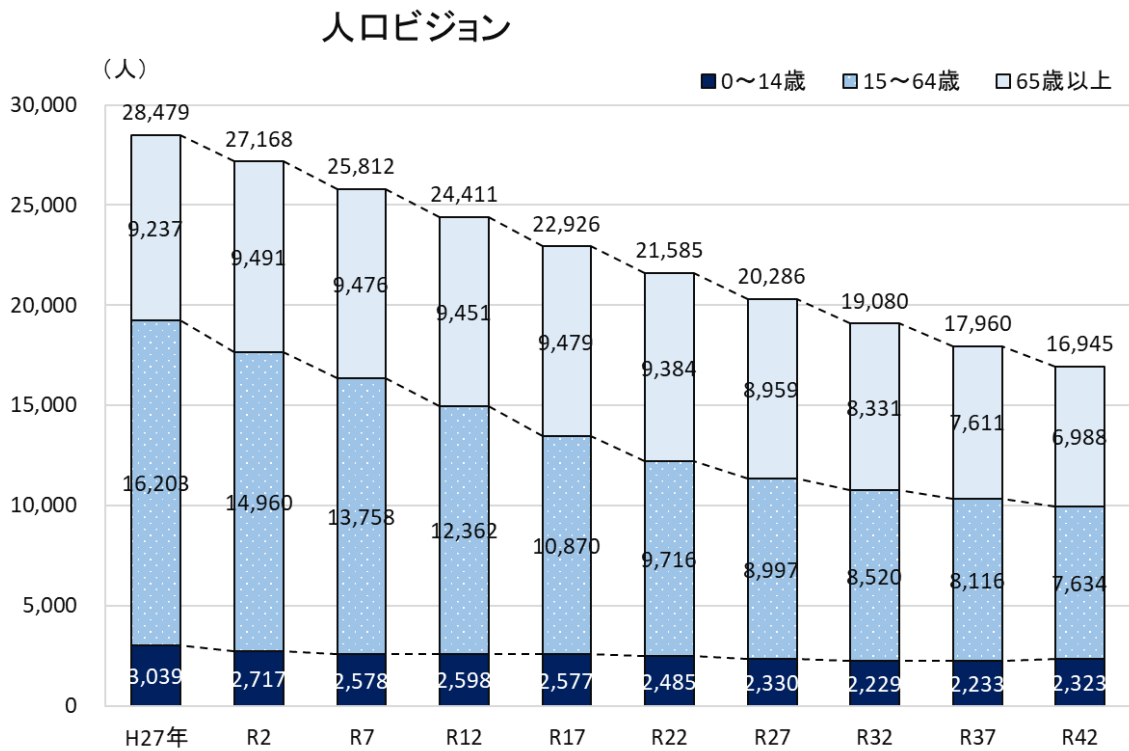
◆年齢3区分別人口(データ:国勢調査)



○ 将来人口推計と人口ビジョン

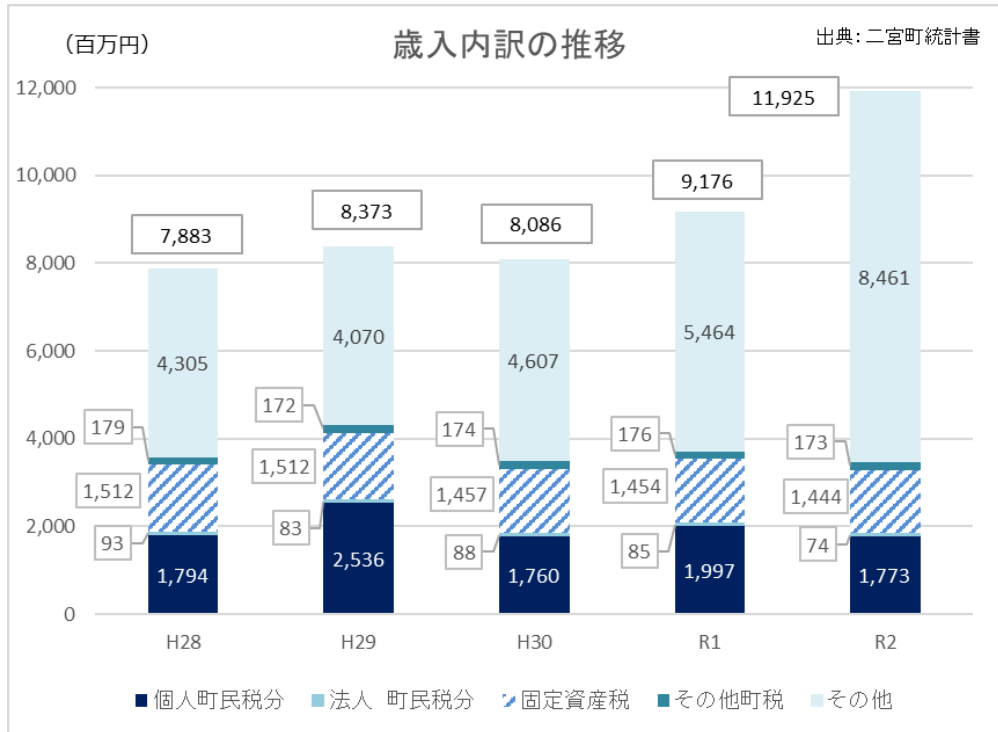
二宮町の総人口は平成 11 年以降、減少傾向にあり、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和 42 年までに 14,376 人までに減少するとされています。年齢階層別で見ると、町の高齢者人口の割合は、平成 27 年度には 31.5%まで増加し、超高齢化社会に突入しています。一方で、年少人口の減少は、今後も続く見通しとなり、進展する人口減少と少子高齢化への対応が課題になります。

そのため、「二宮町人口ビジョン」では、令和 42 年に向かって、出生率を 2.07 まで回復させるとともに、転出超過である社会移動を 0 にし、令和 42 年において町の人口を 17,000 人以上とすることを目指します。

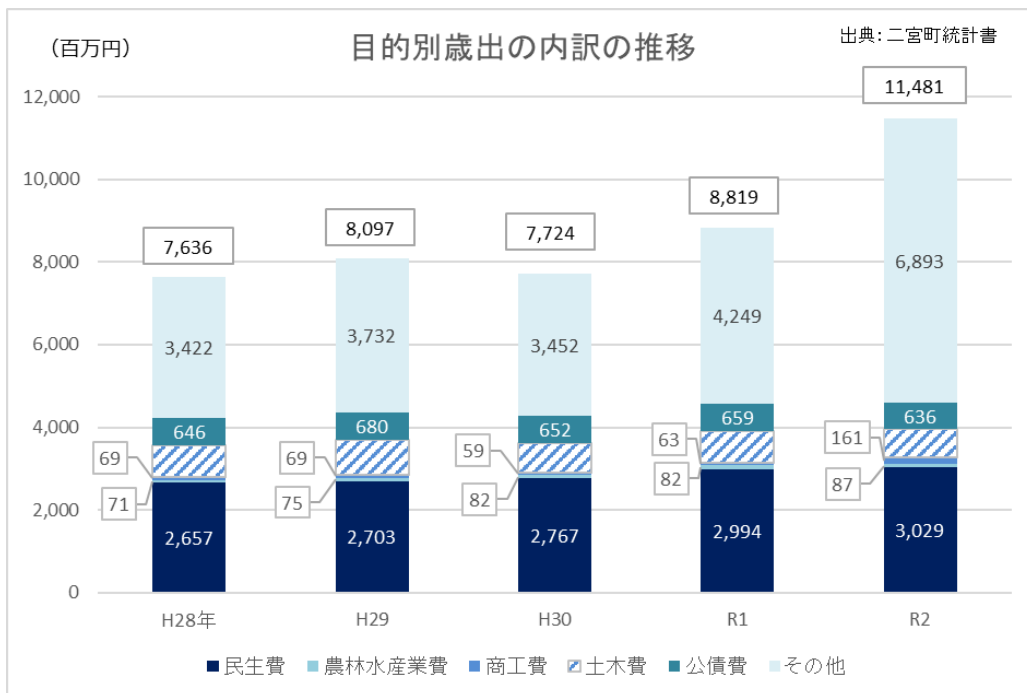


○ 財政状況

町の歳入は、例年 78 億円から 90 億円程度で推移しています。歳入総額のうち、約半分を町税が占めています。町税収入の内訳は、町民税個人分が 50%前後を占め、次に固定資産税が続きます。



歳出は、76 億円から 88 億円程度で推移しています。内訳を見ると、民生費は増加が続き、その他の経費は同程度を維持しています。



(2) 社会潮流と課題

○ 人口減少・少子高齢化の進展

全国規模で人口減少が進み、年齢構成をみると、少子高齢化が加速度的に進んでいます。人口減少は、財政圧迫、地域経済の衰退のほか、地域コミュニティの弱体化等、身近な暮らしにも影響します。

また、少子化が進む一方で、健康寿命が延伸し、社会保障費や医療・介護サービス等の需要が増大することが見込まれます。人生100歳時代において、生涯にわたり輝き続ける社会を実現するためには、介護だけでなく、健康づくりや就業の支援などの仕組みが求められています。

○ 安全・安心に対する意識の高まり

各地で大規模な自然災害（地震や豪雨）が頻発しています。また、新型コロナウイルス感染症なども新たな脅威となっており、人々の安全安心に対する意識がますます高まっています。

さらには、急速な技術革新の進展に伴う新たな形態の犯罪の発生、また悪質な運転による交通事故など、身の回りで発生する事件・事故が多様化していることも懸念されます。

○ 地球規模の環境問題

地球温暖化の進行は異常気象等の自然災害の多発など、深刻な影響を与えています。自然環境の保全、再生可能エネルギーへの転換など、環境に配慮した循環型社会の実現に向け取り組む必要があります。

国においては、令和2年10月に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことが宣言されました。地球上のすべての人々にとって、将来に良好な地球環境を引き継いでいくことは責務であり、社会の持続的な発展を実現していくことが重要となります。

○ 未来技術の活用

インターネットやスマートフォンなどの情報通信技術をはじめ、AI（人工知能）やRPA（業務や作業の自動化）などの様々な技術が大きく変化しており、これらの技術を有効に活用することが求められています。

また、ICT化が進展することで、情報を容易に入手、利用できるようになった一方で、インターネットなどの情報技術を使いこなせる方と使いこなせない方の間に格差（デジタルデバイド）が生じることへの懸念も指摘されています。

○ 価値観の多様化

個人の価値観やライフスタイルは多様化しています。働き方改革によるワーク・ライフ・バランスの重視、新型コロナウイルス感染症の拡大を機に拡大したテレワーク等の働き方や新しい生活様式など、多様な働き方や暮らし方に対応することが求められます。

また、人種、国籍、性別、身体障がい等の外面だけでなく、宗教、価値観、文化等の内面を含め、一人一人の自由な考え方や個性を尊重し、一人ひとり多様性を認め合う社会への転換が進んでいます。

○ 公共施設やインフラの老朽化

急激な人口増加に伴い、昭和の高度成長期から平成のバブル期にわたり整備された多くの公共施設等（役場庁舎、地区集会施設、学校、生涯学習センター、道路、橋りょう、公園、下水道など）が次々に更新時期を迎えています。しかし、現在は人口減少や少子高齢化の進展が著しく、今後の生産年齢人口の減少を見据え、公共施設等の最適化を図り、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に進めることが求められています。

○ 持続可能な開発目標（SDGs）

平成 27 年に、地球環境や経済活動等に関して、人類の営みを持続可能なものとするため、国連サミットにおいて、令和 12 年までの間に達成すべき 17 の目標と関連する 169 のターゲットが設定されました。国や分野を越えて協力し達成していく、世界共通の目標として、経済・社会・環境の諸問題に対し、総合的に取り組むことの重要性が示されており、地方公共団体においてもあらゆる分野において総合的に取り組むことが求められています。

(3) 町民意識

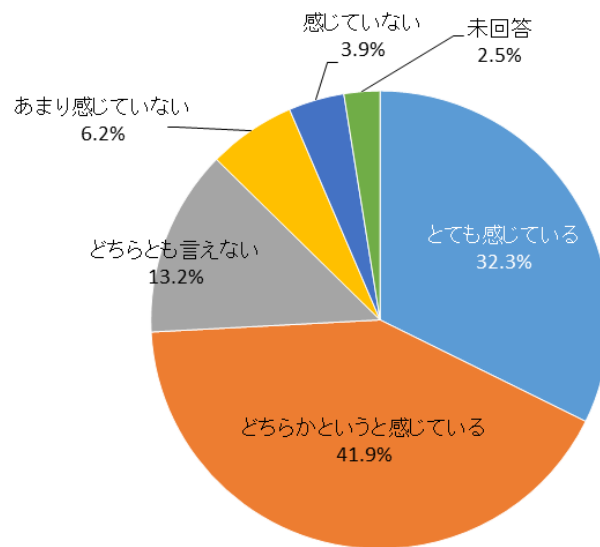
本計画の策定にあたり、町民の意見を把握するため、町民を対象に実施した各種調査結果からみた、今後のまちづくりの前提となる町民意識は以下のとおりです。

○ 町民満足度調査結果

町民（1,000人 を無作為抽出）を対象に実施しました。（回答率 35.6%）

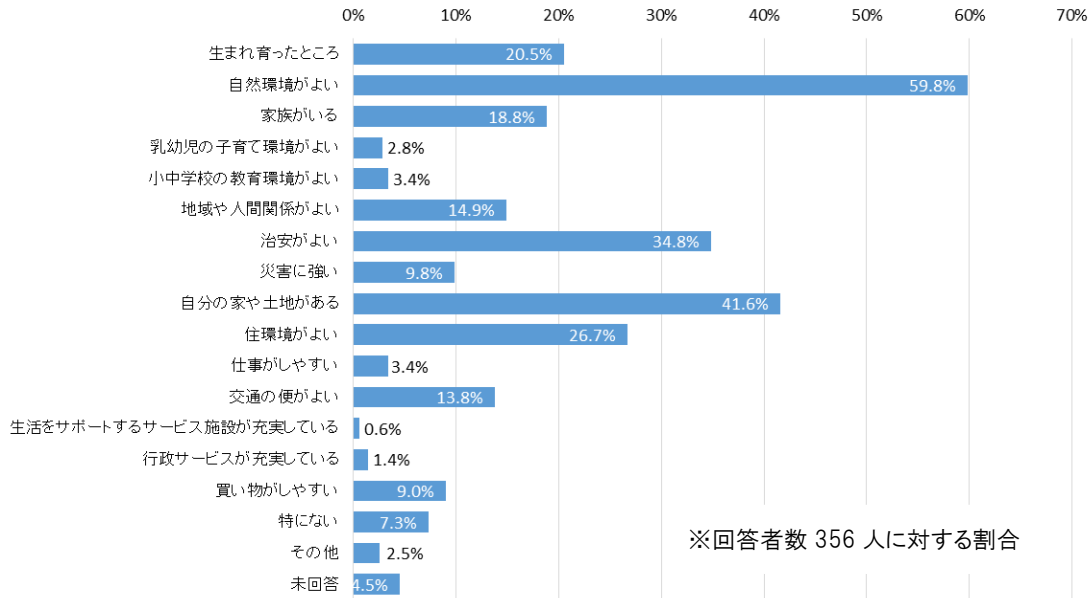
・ 町への愛着

町への愛着を「とても感じている」人が約3割、「どちらかというと感じている」人が約4割と、町への愛着度が高いことがうかがえます。



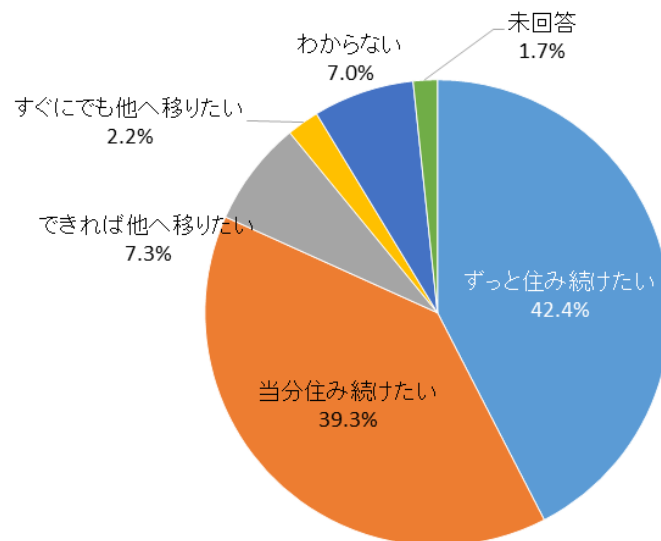
・ 町の魅力

町の魅力としては、「自然環境がよい」と答えた人が約6割を占めるほか、「自分の家や土地がある」、「治安がよい」とする人がそれぞれ3割を超えています。



・ 町への定住意向

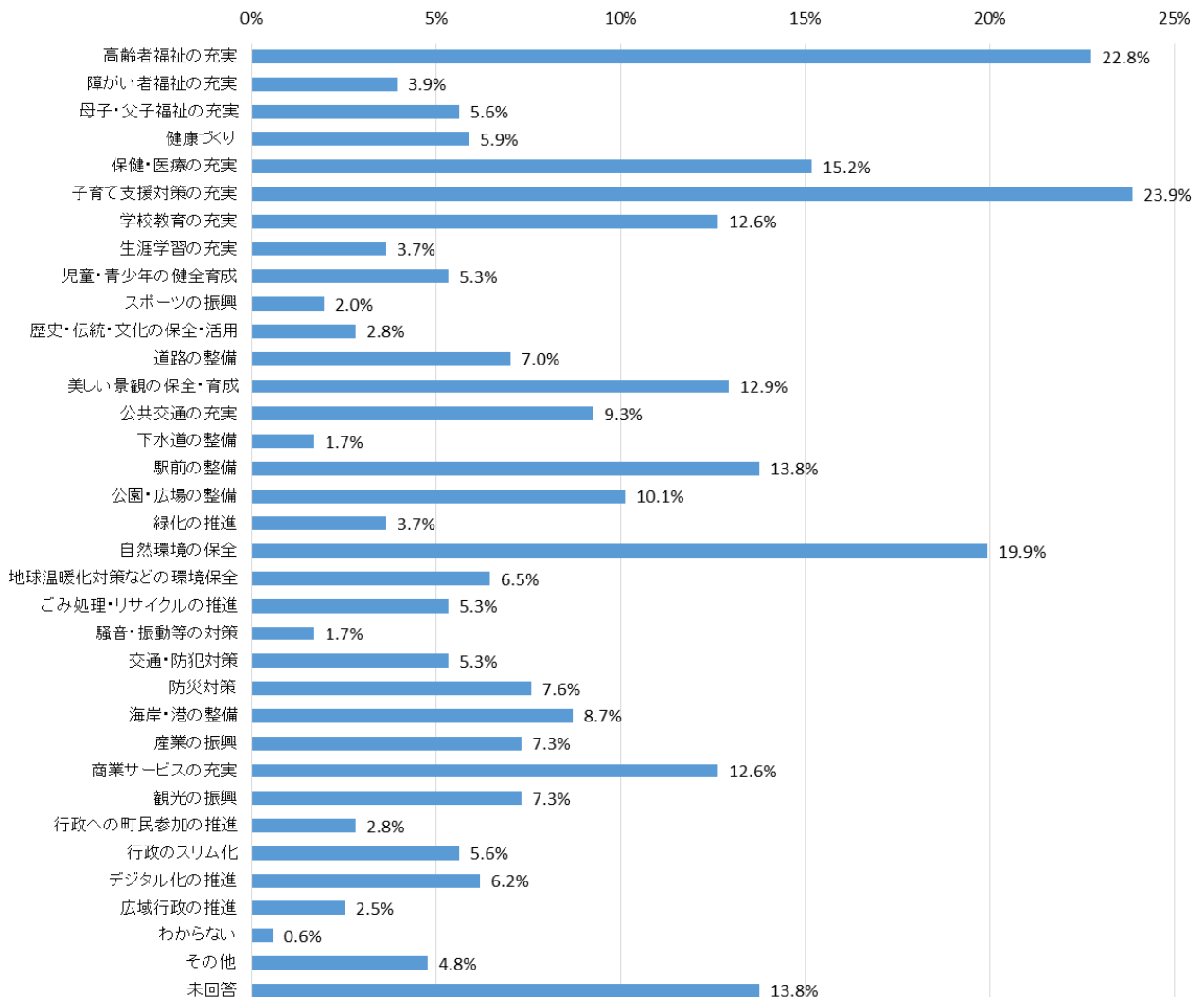
「ずっと住み続けたい」、「当分住み続けたい」と答えた人がそれぞれ約4割と、町への定住意向は高い値を維持しています。



・ 今後力を入れるべき取り組み

町が今後力を入れていくべき取り組みとして、上位5項目は次のようになっています。子育て・高齢者福祉の充実、自然環境の保全を進めていくことが求められています。

- ① 子育て支援対策の充実 (23.9%)
- ② 高齢者福祉の充実 (22.8%)
- ③ 自然環境の保全 (19.9%)
- ④ 保健・医療の充実 (15.2%)
- ⑤ 駅前の整備 (13.8%)

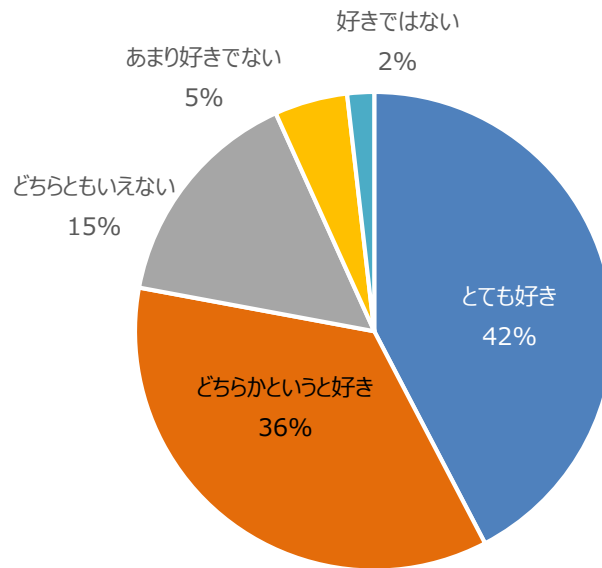


○ 小中学生アンケート結果

町内の小学6年生198名及び中学3年生187名を対象に実施しました。

・ 町への愛着

町を「とても好き」と感じている人が約4割、「どちらかという好き」と感じている人が約4割と、町への愛着度が高いことがうかがえます。



・ 町への定住意向

「ずっと住みたい」、「当分住みたい」と答えた人がそれぞれ約4割と、町への定住意向は高い値を維持しています。

